

グラウンドワーク・ネットワークとしての震災復興支援の取組方針

平成23年4月8日

(財)日本グラウンドワーク協会

4月5日、グラウンドワーク（以下、GWと言う。）のネットワークに登録し、全国のネットワークで東日本大震災後の復興を支援しようというGW活動団体の仲間が集まって議論し、ネットワークとして以下のような取組を行うことを合意しました。

会議に出席した団体は、GW西神楽、GW寒河江、印旛・手賀沼環境あつぷ協議会、GW大山蒜山、GW福岡です。

1. 基本方針

震災復興に当たり、全国のGW活動団体と日本GW協会（以下、JGAと言う。）のネットワークが取り組むべき最大の課題は、GWの得意分野を活かして、コミュニティの再生を支援することと考えています。

一方、GWの志と機動力を活かし、復興支援の一環として今すぐできる取組としては、被災した現地に入って既に直接支援活動を行っているGW活動団体への後方支援、次に生活再建の段階としては、阪神淡路大震災後のGW西神楽の経験を共有して、親が生活再建に専念できるよう被災児童を一時的に預かる取組、家族や地域単位の移住も視野に入れて空き家を提供する取組等を行うことにしました。

2. 項目ごとの取組方針

(1) 現地で直接支援活動を行うGW活動団体に対する協力

① GW寒河江関係

被災地に近いGW寒河江は、甚大な被害を受けた宮城県気仙沼市、同東松島市に頻繁に通い、物資の提供、炊き出し等を行っていることから、ネットワークとしての取組をGW寒河江への後方支援に集中することにし、JGAを対策本部、GW寒河江を前線基地とし、気仙沼市に人を派遣して現地詰所とする体制を組むことにしました。

現地詰所の要員は、JGAと各GW活動団体が経費（1人半年分の賃金約90万円及び活動経費）を拠出してJGAが臨時職員として雇用し、これに賛同する団体は応分の負担額を(2)①に記す募金の専用口座に送金することにした（その旨連絡のこと）。

また、全国のGW活動団体の紹介を受けてボランティアで働きたい人に対しては、なるべく一人10日以上現地に滞在してもらう方向で本人にお願いし、JGAが日程を調整して送り込むことにしました。

なお、この活動は、後日、被災地の本格的な復興の過程で、GWのネットワークとしてコミュニティの再生等に協力することを視野に入れていきます。

② その他の団体関係

GWいわては岩手県庁の呼びかけに協力しており、可能な範囲で協力して欲しいと言われておりますので、個別に検討することにしました。なお、岩手県庁は、被災地で必要な物資のニーズを把握し、法人、個人からの義捐物資を登録して受け付ける方法で不足物資の提供を求めています。<http://sv032.office.pref.iwate.jp/~bousai/>

また、GW西神楽は、道内のNPOの協力の下に岩手県釜石市に支援に行っておりますので、協力したい方は直接、GW西神楽と連絡を取って下さるようお願いいたします。

(2) 被災者の生活再建に協力する取組

① 被災児童を家庭で預かる取組

取組の趣旨は、被災児童を1か月以上預かり、親が生活再建に専念できるよう支援することです。受入児童の対象は、暫くの間、親と一緒になくても暮らせる小学校3～6年生を中心とし、できる限り、同じ小学校の児童を同じ地域で預かるようにします。

GW活動団体は、受入家庭の募集、精神的なケアのできる方の確保、教育委員会との調整等を行い、受入に要する経費は基本的に地域内の募金で賄います。現時点での各団体での受入可能児童数は3団体66人となっており、他に3団体が検討中です。

被災地と受入団体とのマッチングは、GW寒河江が得る被災地からの情報、JGAが得る国からの情報等を通じて行います。

JGAは、受入家庭等地域の負担を軽くするため、募金の専用口座を開設し、賛助会員、海外のGW関係者等に呼びかけて募金を集め、ネットワークで取り組む団体に配分します。また、この取組に対する支援の可能性について国や関係機関と相談します。

銀行名：三井住友銀行浜松町支店

口座名：財団法人日本グラウンドワーク協会 震災被災者支援事務局

店番号：679 口座番号：普通預金7479918

ATMから振込の場合、振込手数料はかかりません。

② 空き家等を使って被災した家族全体を迎える取組

取組の趣旨は、当分の間、被災地域での生活再建が見込めず、家族揃って移転したい方を迎え入れることです。

GW活動団体は、入居者が空き家を修理しないで住めるよう事前に整備点検し、電気、水道、電話を使える状態にし、冷蔵庫、洗濯機、テレビ、コンロ、食器、布団などの中古品等をできる限り用意し、移転してきた家族が新しい地域に早く溶け込めるよう、サポートすることにします。現時点での各団体の受入可能戸数は3団体27戸となっており、他に3団体が検討中です。

被災地と受入団体とのマッチング、JGAの役割は、①と同様とします。

(3) その他の取組

- ① 関係者のうち都合のつく方が、4月8日、気仙沼市の被災地に赴き、今後の支援方針を検討することにしました。
- ② JGAの企業賛助会費を活用した「GW企業スポンサー事業」の平成23年度の使い方として、被災地でも組み立てられるバイオトイレ、太陽熱温水器、フィルター濾過装置などをできるだけ安価に入手して寄贈することにしました。
- ③ 各GW活動団体、JGAは、各々の震災応援対策予算の確保のため、民間資金等の獲得を検討します。
- ④ 以上の合意事項について、GWの全登録団体に伝え、協力・参加の検討をお願いするとともに、必要な部分を英訳してJGAからGWUKに情報提供します。

(参考) GW西神楽(北海道旭川市)は、阪神淡路大震災(1995年)の後、被災地の児童を1~6か月間預かる取組を行いました。



16年前の被災地の避難所(テレビ報道)



子供たちが集団で北海道旭川市へ



受入家庭から温かく迎えられた児童たち



同じ小学校から来た友達同士仲良く

当時の児童は既に大人になり、結婚した方も多くなりましたが、今でも当時の受入家庭との交際が続いているそうです。

GWのネットワークでは、このような経験を全国のGW活動団体が共有し、東日本大震災後の取組として展開しようとしています。